



2021年12月1日

## 第124号お知らせ版

### NPO法人 響き合いネットワーク東京 SP の会

### NPO Resonate Network Tokyo SP

○11月1日(月)と11月5日(金)11月10日(水) 旗の台の昭和大学で1年生と医療面接を行いました。ズームですのでカメラに目線を合わせないと台本を見ているように見えるのです。



SP4名に指導の先生が4名付き事務の方はPCのコントロールと泉先生が総監督で行われました。とても1年生とは思えない出来栄でした。練習の効果ですね。

○11月2日と3日で3名の方が、SPを知りたいとのことで中野事務所で勉強会を開きました。

本物の医療面接を体験したいとのことで11月12日・16日・18日に1名ずつ東京都立広尾看護専門学校で見学させていただきました。

○11月10日(水) 東京都立広尾看護専門学校の総合実習で3年生と面談しました。SPは5名が胃がんの手術後の患者、5名はこれから大腸がんの手術を受ける患者役です。役づくりは担当の先生とSP10名が打ち合わせをして、身体接触も含めて実習が行われました。



自己紹介して 容態を聴く学生 検査室に移動するSPにつき添う学生 手術後の処置をする学生

3年生ですが、すでに職場が決まっている学生さん、落ち着いてゆっくりと患者対応をしていました。

○11月11日(水)昭和大学「医療面接(プロフェッショナリズムⅢ)」の医学部3年生に、神永教子が医療面接の講義と体験学習として、学生どおしでロールプレイを行いました。



教子、講義の後、高宮先生と神永貞信による OSCE 並みの面接。 実習室で3名1組の学生どおしでロールプレイ  
 学生のロールプレイ終了後、最後の評価者の学生に感想を發表してもらいました。結果、1名の学生以外は全員「問診」と發言していました。

○11日の18時から昭和大学のカリキュラム委員会が開催されました。委員の先生の意見交換後に学生が5名参加して、自分の希望を發言していました。学生も参加してのカリキュラム委員会にはさすが昭和大学と感心しました。

○11月12日(金)東京都立看護専門学校で8時30分集合9時から開始で10名のSPに指導教官が5名つきました。シナリオは10日と同じなのですが参加する学生が違います。



準備に時間がかかってます。 ようやく容態を聞いてくれました。 傷が痛いけどいつ退院できるかと質問するSP



「ベットの高さ少しさげますか」、 「うーんそうだね」 そのほうがみんなの顔が見えるとSP 本日の容態を聴く学生、

○11月16日(火) 12日と同じ学生さんで2回目です。前回の面接での質問や様態の把握などグループの学生さんと検討したものを担当の教官に報告してから、医療面接を行いました。



医療面接が始まる前に担当教官と打ち合わせ、教官から点滴と術後の傷の腹巻をSPは行われました。ご挨拶から検査に移動する

## 看護実践の実習に模擬患者として参加した感想

神永 貞信

東京都立看護専門学校で、11月10日（水）と12日（金）、それに11月16日（火）と18日（木）の4日間にわたって、看護実践に模擬患者を使つての実習が行われました。

従来は、学生を病院に派遣して、患者に対しての看護実践を行っていたとのことでしたが、コロナ禍の問題が生じて、病院からの受け入れ拒否のために、模擬患者を使つての実習とのことだそうです。すなわち、実際の患者の代役として症状等を演じてくださいということのようでした。

事例は2つ。胃がん術後の患者と直腸がん術前の患者を2日間同一の学生たちが対応するという設定です。

術後2日目（16日）の患者は、胃の術後痕のある腹帯を巻き、点滴を腕に装着し、背中に痛み止めのドレーンを付け、股のところに尿道カテーテル付けるといった重装備で、症状は傷の痛みが強いということでした。術後4日目（18日）では背中のドレーンは外された状態での対応で、症状は腹部の膨満感とまだ痛みが残っている患者を演じました。

小生は胃がん術後の患者を演じたので、16日と18日のからだの装備、症状、学生の対応、教官の学生に対する看護指導などについて感想を述べさせていただきます。学生に対する患者の要望、たとえば「痛み止めてほしい」と言えば「我慢できませんか」とか「先生や看護師に聞いてきます」といった対応でした。また、歩かせる手伝いや車いすでの移動や点滴のスピード調整などは担当教官の指導で学習していました。これは看護技術の指導であったのではと感じました。

そこで小生は少々意地悪な質問をしてみました。「歩くよりこのまま寝ている方が楽ですよ。歩かなければならない理由は何ですか」とか「血圧を測っているが、その基準となるのは何ですか」とか「指先で血液の中の酸素濃度を測っているのは、どうして分かるのですか、その原理が聞きたい」といったことを聞きましたが、自分の思っていることをさも真実のように話しておりました。間違った答えを聞いている患者はどう感じるのでしょうか。なかには「わかりませんので、勉強してきます答えを調べてきますので待っていてください」と言って、次の日に来た時先日の答えを話してくれました。この学生は正直で、一生懸命勉強するから信頼してもよさそうだと思います。このようなやり取りから、小生は患者から信頼される看護師と、患者が早く治そうという意欲を持たせることができるのは看護師の患者に対する接し方が大きく影響していると感じました。

○11月24日8時30分富士山駅からタクシーで大学に集合、参加者10名が全員抗原検査を行いました。全員陰性で安心しましたがこのため、恒例のお昼の「ほうとう」はなしでした。



日本一の山(昭和大富士吉田)と 検査のため集合する SP 陰性判定後体育館に集合 全科の1年生による医療面接  
感想

11月24日、昭和大学富士吉田キャンパスで1年生のOSCE医療面接に今年も参加しました。

村上宗隆

恒例の吉田名物の昼食ミーティングは、コロナ対策での抗原検査を、全員ワクチン接種を終えこれまでの旗の台での医療面接参加の実績から、99%陽性者は出ないだろうとの推論もあったと思いますが、事前には行わないで当日になったため、お預けになり、思い思いにランチを求めて富士吉田校舎へ急ぎました。私は、鼻粘膜から採取してのPCR検査、唾液からのPCR検査を体験しましたが、抗原検査は初めて。ひょっとして、これが政府の言う、ワクチン抗原検査パッケージかなと思いながら、係りの先生の前に。採取は鼻からでした、痛くすぐったい検体採取を終えると、何やら小さい短冊の判定器とスポイトみたいなものを渡される。30分位これを見つめて結果を自分で確認するんだそうで、小さいスポイトは不確かな時に追加セットする検体だそうだ。賑やかでしたね判定が出るまでは。赤くなったら陽性だとか青くなったらいいんだとか、要するに誰もやったことは無かったらしい。最初に受けた石井さんの結果が先生の確認により青い線がくっきりと出て陰性判断、一件落着。全員無事陰性、交通費が無駄になることは無く、田澤さんがさっそく理事長に電話報告、そうそう今回は神永ご夫妻は他用の為不参加でした、忙しいんです、お二人は。

すみません、ちょっと長すぎましたね、興味津々だったものですから、皆さんにもお伝えしたくて。安心してお弁当を広げ、腹が減っては戦は出来ぬと無言で(?)ぱくつき、100m先のスクエアガーデンへ。格好いいネーミングですが、要は体育館(としか思えない)でも綺麗な建物。フロアを目いっぱい使って10カ所の面接ブース(囲い無し)。1ブースに6名の学生が割り振られ面接は、医師役と評価者役の学生二人とSPで進められ、学生は、医師⇒評価者を務める。先生はタイムキーパーで離れて見守るだけ、という、学生には非常に勉強になる形態ですね。学生は、まず初診の面接を、ほぼSP全員が感心する流れをマスターした質疑でこなし、ついで身体診察。想定疾患は気胸、桔梗信玄餅ではないですよ?!身体診察はバイタル測定と時間の関係で体前面、胸部の聴診器による診察。コロナの為か、顔面、頸部、体表面の触診は無し。バイタルに検温が無かったのは、体温計の扱いのせいか?しかし、誰も発熱の質問をしなかった(私のところだけ?)のは、残念だった。

評価者の学生は、医療面接と身体診察に分けて、OSCEと同じく詳細なチェックをしている評価表を事前に頂いたが、実に詳細であり、OSCEのシステムを理解させる配慮が感じられた。医療面接については、質問事項はほぼ完べきなので、評価シートの戸別の項目上はほぼ全員が2(2, 1, 0の三段階)になってしまい、総合評価は学生の個性が浮き出てきて、患者としての心理的な状態、安心できたかどうか、信頼できたか否か、という、ある意味でOSCEを越えたところであることになった訳ですが、従って全くのフィーリングになってしまい、客観性のある評価は出来なかったのが申し訳なく思っています。

学生さん皆さん上手です、少なくとも OSCE 対応の手順はマスターしているように思えますね  
その手順が暗記式の未消化段階かなと感じる学生もおりますが、合間合間に共感的な言葉を入れて  
ちゃんと対話になっているんですから、昭和大医学部一年生恐るべし！！

で、OSCE なのに申し訳ないが、時間の余った学生に、この痛みは何なんです、と聞いてみました。  
この段階では、何と云える程ではなくて、レントゲンや CT で詳しく検査して、判ると思います  
というのが妥当な答えでしょうが、えーとと考えてくれた学生、指導の先生に伺って、や、  
あちらで検査を待っていてください、と、困った学生もおられました、ごめんなさいね。  
これまで出てきた想定疾患は、医療面接でその片鱗を見出せる疾患が殆どだったと思いますが  
私の理解不足も有ったでしょうが、示唆できるような応答は出来なかったので、先生に伺ったら  
相当程度進まなければ気胸は問診段階で見つけるのは殆ど無理なのです、とのお答えでした。  
後で伺った事ですが、左胸が痛む＝心臓疾患の疑いが強いので、そうでない例として気胸を  
選んだんだそうです。痛みの出方、性状、頻度や持続性で、心臓ではない見当をつけられれば  
上々、ということでしょうか。参加した皆さん、如何でしたか？

一回目のグループが終わった後、学生が挨拶に来てくれました、女子学生が 2 人、先日のリモート  
面接でお会いしました、と云ってくれ、思いがけず嬉しかった、大袈裟ですが、やってて良かった。  
去年よりまた一段とアップした、指導される先生方の御努力と、スムーズな進め方を感じました。  
沢山のお茶菓子のご用意迄有り、響き合いの皆さん、一度は良い処富士吉田へお出かけください。  
帰りは、11 月末の富士北麓は流石に真っ暗、私は車で直帰ですが、皆さん、どうされましたか？  
時刻はまだ 5 時前、ご苦労様会の時間はありましたね？  
した。

○11 月 26 日 12 時 30 分から東京医科歯科大学の試験で 4 名の学生さんと石井さんががんばりました。

感想

石井政幸

4 名のところが 3 名でした。3 名の学生に面接をしましたが、これと言って落ち度もなく出来て  
います。10 月 30 日 OSCE では実力が出なかったのかなと思いました。終了後に、事務局の方が申  
しておりましたが、本日の 1 名の欠席者のために 12 月 3 日行うことになりました。

○11 月 16 日 9 時 30 分から 15 時 30 分まで相模原看護専門学校へ、女性 SP が 9 名参加しました。  
対象の学生は 3 年生で 81 名です。肺炎患者の寝衣交換と人工股関節全置換術後の車椅子移乗を行  
いました。感想は参加した鳴島さんからです。

鳴島睦子

相模原看護専門学校3年生の看護技術試験に参加させていただきました。始めて参加した学校は市の施設と隣接した場所にあり、実習施設が完備されている学校であることに感心しました。今回の私の役割は、肺炎患者で前日に入院した患者役でした。

本試験の学生の課題ポイントは、4つあり①は経鼻カヌラが鼻から外れていることに気が付きなおすことができたか。②は又は漏れていないかの確認ができたか。③はパジャマの上着交換がスムーズにできるか④は体調、(熱・咳・痰の絡み)状態の確認と声掛けができたかを男女9名の学生と行われました。試験が始まった途端「どうしたらいいんだー」と口に出し、手順を思い起こしているのか、考えながら悪戦苦闘をしている様子の学生。着替えのひもが解けないことに苦戦している学生。袖口からうでを出せないため無理に出そうと悪戦苦闘し、SPが「痛い・痛い」と声を出してしまう場面もあり大変でしたがわたくしも「がんばれ・できてよかったね・おいおい!まだ、そこは診てないよー」と心の中で叫びたくなる場面もありました。でも、どの学生も手が震え、緊張の中で迎えた制限時間の合図に、一気に緊張がほどけ、どっと疲れた様子の学生を見ると、わたくしもつい笑顔が出てしまいました。

最後に試験で感じたことは、「専門用語」を使い説明していたことです。一部の学生でしたが、着替えの際に「セイシキしますね」し言う言葉が出てきたり、酸素吸入チューブがずれていることに気づき、「経鼻カラン」直しますね・・・という言葉が出たことです。患者に分かる言葉で説明してほしいという気持ちがあります。そこを理解し接していただけると患者は安心して心を開くことができます。その思いを理解できる医療者になって頂きたいなーと願いました。今回もまた、学生  
の真剣な姿勢に感心させられ、将来の看護師としての姿を想像することが出来ました。

○11月29日8時30分から16時まで下杉彰男さんと西川禎子さんが、昭和大学で動画撮影を行いました。

感想

西川禎子

11月28日(日)は、昭和大学模擬実習風景撮影に行って来ました。私は喉頭がん末期患者の妻役ということで、患者役の下杉先生と二人だけです。

昭和大学13号館.....普通の一軒家ということでしたが、マンションみたいに大きい二階建てで、二階には日差しいっぱい部屋がいくつかあり、一階は広いダイニングキッチンと和室がありました。

その和室が撮影場所です。ベッドが置かれ、壁には家族写真(?)や、孫が描いたとみえる恐竜の絵が張ってあったり、タオルが干してあったり、1ヶ月分の薬入れが張ってあったりして、生活感溢れる部屋になっていて、ハウススタジオのようです。

先に来ていた私の出番は、まず玄関から訪問の先生と学生さんたちを招き入れるところ。先生のにこやかな顔が印象的でした。学生さんたちは、「先生うまいね」なんて言っていました。

先生は「本職なもの」と笑っていました。その玄関のシーンを何カットか撮り、到着された下杉先生と初めてお話をしました。先生は、喉頭がんの役だからと、話し声にも気を使われて、すごく役作りをされていました。学生さんたちの自己紹介シーンでは、ネームプレートがすぐ裏になってしまい、何度も直さなくてはなりませんでした。同じシーンでも、角度を変えて何カットも撮り、午前中は終了。お弁当を頂きました。

午後は別の日の設定ということで、私は別の服に着替えました。先生方も、今度は歯科に変わりました。女の先生もユーモアがあり、楽しかったです。学生さんたち、歯科の知識も勉強していて、大変だなと思いました。

私は、患者に対しての作業をするシーンはあまり見ていないのですが、足湯もされたようで、後で下杉先生に、「気持ち良かったですか。」とお聞きしたら、「小さい洗面器で片足しか洗ってもらえず、温かくなったような寒くなったような.....」と仰っていました。

最後は、末期の患者に対し、学生さんが、「何かやってみたいことは？」と聞かれ、「うなぎが食べたい」の言葉に一同笑顔、というところで終了しました。

一日がかりと聞いていたけれど、予定より一時間ほど早く終わりました。

ステキな"ロケ地"で、監督さん、カメラマンさん、撮影スタッフのみなさん、先生方、学生さん、と良い方ばかりの中で楽しい一日でした。

## 12月の行事

12月				
12月3日	12:30	東京医科歯科大学	1名	石井
12月4日	13:30	会計部会	4名	近藤・佐藤金巻
12月6日(月)	9:00-12:00	神奈川歯科大	10名研修医 時間変更です。ok	田澤・鈴木・浅岡・森・近藤・佐藤・石井・佐伯 棚橋洋子 大川記代
12月6日(月)	13:00-15:30	評価機構	オンライン	神永教子・貞信
12/11日(土)	13:00-15:31	事務部会	6	神永教子・貞信・森
2021/12/21(火)	9:30-16:30	東邦大看護	SP 男性性 14名	田澤・佐伯・小林・佐藤・棚橋・鈴木節・鳴島・下杉・浅岡・村上・石井・佐野・教子・予備 大川 上野
12月22日(水)	9:30-16:30	東邦大看護(身体接触有)	4名OK	・貞信・石井・下杉・村上予備神永

## 1月の行事

2022/1月				
1月8日		東京女子医大PCR検査	3名+8名	村上・田澤・石井・近藤・森・下杉 浅岡 佐藤 予備・鳴島・田中京子 神永教子・貞信
2022/1/12(水)	9:00-15:05	東京女子医大8-4名	8名腹部2名胸部2名	田中京子・佐藤・小林・浅岡・石井・大川・教子・田澤 森 近藤 三宅 村上予備貞信

2022/1/13(木)	9:00-15:05	東京女子医大 8名+4名	8名腹部2 名胸部2	村上・佐藤・小林・浅岡・石井・棚橋浩治・洋子・ 大川・鈴木節・近藤 森トシ 三宅 予備 佐 伯 教子 貞信
2022/1/15(土)	7:45-15	東京女子医大	OSCE SP8名	村上・田澤・石井・近藤・森・下杉 浅岡 佐藤 予備鳴島・田中京子
2022/1/18 火	9:30-14:20	日本赤十字看護大学埼玉看護学 部	6名	教子・貞信・田澤・鈴木・小林・鳴島
2022/1/19 水	9:30-14:20	日本赤十字看護大学埼玉看護学 部	6名	教子・貞信・田澤・鈴木・小林
2022/24 月	9:30-14:20	日本赤十字看護大学埼玉看護学 部	6名	教子・貞信・田澤・鈴木・小林
2022/25 月	9:30-14:20	日本赤十字看護大学埼玉看護学 部	6名	教子・貞信・田澤・鈴木・小林
1月27日決定		相模原看募集	女性8名 OK	<a href="#">近藤・田沢・森・浅岡・金巻・佐伯・田中京子・三 宅</a>
2月				—
2月4日	9:30-16:30	東邦大学健康科学部	3名	田澤・鳴島
2月7日	9:30-16:30	東邦大学健康科学部	3名	田澤
2月8日	9:30-16:30	東邦大学健康科学部	3名	田澤
2月9日	9:30-16:30	東邦大学健康科学部	3名	田澤
2月24日	13:00-14	<a href="#">栃木県立衛生福祉大学 校</a>	<a href="#">3名講義</a>	神永教子・貞信・淳子
3月				
3月4日決定		<a href="#">栃木県立衛生福祉大学 校</a>	寮面接面 接	佐野・鈴木節子・佐伯・神永貞信

日赤と東邦大学お時間の取れる方はお知らせください。

文責 神永 教子